

Apple Screen TimeによるUmbrella保護の無効化の防止

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[概要](#)

[解決方法](#)

はじめに

このドキュメントでは、Apple Screen TimeアプリケーションがUmbrella保護を無効にすることを防ぐ方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Umbrellaローミングクライアントに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

概要

Apple iOSとmacOSには、ユーザが個々のアプリケーションに費やす時間を監視および管理できるScreen Timeと呼ばれる機能があります。これにより、一部の種類のユーザーはプログラムの実行時間を制限できるため、Umbrella保護を無効にする意図しない機能が作成されました。

この問題は、次のAppleソフトウェアバージョンとシスコ製品に影響を与えます。

- macOS (Catalina 10.5以降)
- iOS (バージョン12以降)
- Umbrellaローミングクライアント

- AnyConnect Umbrella Roamingセキュリティモジュール

解決方法

Umbrellaの導入に使用するMDMまたは各デバイスでScreen Timeを無効にする必要があります。

macOSの画面時間を無効にするためのAppleのドキュメントの詳細を読む：[Macの画面時間をオフにする](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。